

# 『厚生新篇』の原著者、

## ノエル・ショメルについて

森 川 甫

はじめに

「維新前に於て質に於て量に於て最大の譯稿<sup>1)</sup>」「近世日本文明の一大源流<sup>2)</sup>」「我が邦科学史の第一頁を占むべき貴重なる文献<sup>3)</sup>」「日欧文化交流史の中で注目すべき、徳川幕府最大の訳業<sup>4)</sup>」と評せられている『厚生新篇』の原著書は、ノエル・ショメル師 Abbé Noël Chomel が 1709 年に創刊した *Dictionnaire* <sup>ディクシヨネール</sup> <sup>エコノミツク</sup> *æconomique, contenant divers moyens d'augmenter son bien et de conserver sa santé*… (『その財産を増殖し、その健康を増進させる、様々な方法を取める厚生辞典』) である。のちに、オランダのデ・シャルモット De Chalmot が「原書について深く研究し、大いに増補訂正し、遂に全部七巻の書とし、……其原本は、<sup>ホイス ホルデレイキ ウォルデンブック</sup> *Huishoudelijk Wordenboek door M. Noel Chomel. Tweede Druk gebeel verbeterd, en meer als verme erdert door J. A. de Chalmot. Te Leyden bij Joh. le Mair, en te Leewarden by H. A. de Chalmot. 1768.*<sup>5)</sup>」とされている。

文化 8 年 (1812 年)、第 11 代将軍、徳川家齊の命により、幕府は江戸浅草暦局 (天文台) 内に蕃所和解御用 (洋書翻訳局) を設置し、『ホイス・ホルデレイキ・ウォルデンブック』の翻訳に当らせた。本書の訳書は、馬場佐十郎貞由<sup>6)</sup>、大槻玄澤茂質<sup>7)</sup>、宇田川璞玄真<sup>8)</sup>、大槻玄幹茂禎<sup>9)</sup>、宇田川榕庵<sup>10)</sup>、小関三英<sup>11)</sup>、湊長安<sup>12)</sup>ら 7 名であった。この翻訳事業は、文化 8 年 (1812 年) から天保 6 年 (1836 年) のあいだに、第 1 巻から第 60 巻が完成し、その後、天保 10 年 (1840 年) 頃までに、第 61 巻から第 70 巻が完成された。

『厚生新篇』の原著者、ノエル・ショメルについて

本書は *Huishouldelijk Wordenboek* (= Household Dictionary) という題が示す如く、家計辞典、日用百科辞典であって、原著書名、*Dictionnaire oeconomique*<sup>ダイクシヨネール エコノミック</sup> は『厚生辞典』に近いから、内容からみて、『厚生新篇』という訳語はなかなか巧妙と言える。内容は、物理、化学、天文、動物、植物、鉱物、生理、農業、医学、衛生、薬学など、きわめて多くの領域を網羅し、また、ただ単に、翻訳しているだけではなく、訳者の私案をも付しているのので、翻訳当時の、我が国のレベルをも推察することができる。

本書の翻訳事業は、全国民の生活向上のため、国民がこれを読んで各自の生活や職業を改善するため、つまり、国民教育のためになされたので、文章は当時流行の漢文体ではなく、「本編の訳説初より俗文国字となせり<sup>13)</sup>」とある如く、当時の日常の国語であり、口語文に近い。オランダ語版の『ホイス・ホルデレイキ・ウォルデンブック』が我が国に輸入されたのは、18世紀末であり、翻訳に着手されたのは、19世紀初なので、X光線、蓄音器、ラジオ、ガソリンなどの語はまだ取められていないが、ビールやぶどう酒の作り方は記載されている。また、瓦斯<sup>ガス</sup>、天鵞絨<sup>ビロード</sup>、麦酒<sup>ビール</sup>、葡萄酒<sup>ウエキン</sup>など訳語の源と思われる多くの語が見い尾される。

このようにして、『厚生新篇』が翻訳されたのであるが、この書の原著者、ノエル・ショメルはどのような人物か、また、その著書の成立の動機、状況はどのようなものであったのだろうか。その点を調べてみたい。

### ショメル家の人々

*Les Chomel, médecins (1639—1858) et leur famille — Biographie et généalogie* —— (『ショメル家の人々、医師 (1639年—1858年) その家系——伝記と系図——<sup>14)</sup>』によれば、ショメル家には多くの優れた医師が輩出している。*Dictionnaire œconomique* の著書、ノエル・ショメル Noël Chomel の弟、ジャン・バチスト・ショメル Jean-Baptiste Chomel (1639—1720) も医師であるし、ノエル・ショメルの甥に当る、ジャン・バチスト・ショメルの息子たち、

【厚生新篇】の原著者、ノエル・ショメルについて

つまり、ピエール・ジャン・バチスト・ショメル Pierre Jean-Baptiste Chomel (1671-1740) は医師で、パリ大学医学部長であり、また、フランス学士院の会員であり、ジャック・フランソワ・ショメル Jacques-François Chomel (1678-1756) も医師である。ピエール・ジャン・バチスト・ショメルの息子たちのなかでも、ジャン・バチスト・ルイ・ショメル Jean-Baptiste-Louis Chomel (1709-1765) は、国王の主治医であり、また、パリ大学医学部長であり、アマール・ショメル Amable Chomel (1730-1758) も国王の主治医である。ピエール・ジャン・バチスト・ショメルの孫に当る、オーギュスト・フランソワ・ショメル Auguste Francois Chomel (1788-1858) はパリ大学医学部教授である。このように医者が多く、その他の職業では、ノエル・ショメルの父、ジャン・ショメル Jehan Chomel (1594-1650) のように公証人、ノエル・ショメル自身のように、カトリックの司祭<sup>15)</sup>などである。

### ノエル・ショメルの経歴

ノエル・ショメルは王の公証人、ジャン・ショメルの息子として、1633年11月3日、ガンナ Gannat で生れ、翌日、サント・クロワ教会 église Sainte-Croix 司祭、クーシェ師 M<sup>re</sup> Couchet より洗礼を受けた。サン・シュルピス Saint-Sulpice の神学校で教育を受けたのち、司祭に任命されている。同神学校校長、トロンソン師 l'abbé Tronson は彼を「秩序を尊重し、緻密さを求め、活動的な精神に富む大人物<sup>16)</sup>」と評し、彼をパリの東、ヴァンセンス Vincenne 近郊にあるアヴロン Avron の修道院の財産管理を委ねた。この修道院は、あらゆる種類の農機具を保有し、いろいろな農作物を栽培していたので、ノエル・ショメルは農機具、農作物の研究をし、博物学への関心を深めていった。この体験は、後年、*Dictionnaire économique* の項目を作成するのに役立った。また、王立果樹・菜園園長のド・ラ・カンチニー氏<sup>17)</sup>の知己を得、その弟子となり、研究の報告をして、相談に乗って貰い、指導を受けたことは、*Dictionnaire économique* を編纂するとき、大いに役立った。

『厚生新篇』の原著者、ノエル・ショメルについて

1670年には、サン・シュルピス神学校の司祭を兼任する。1671年頃、アヴロンの仕事だけでは、彼の慈善事業への熱意と貧者への愛を満足させることができず、また、行政手腕、評判、実行力、知識の故に、リヨンの総合病院 <sup>グラン</sup>Grand Hôpital Général の財務官として就任することになった。そして、700名の患者を収容しているこの病院において、ノエル・ショメルは慈善事業の精神を鼓吹し、財務、人事管理に当たった。財務の主な日常の職務は、日に数回、患者を訪ね、十分な治療手当と食事、またできるだけ多くの診療を配慮し、病院のすべての業務を監督することであった。この病院での体験により、ノエル・ショメルは、*Dictionnaire économique* において、病院行政、治療、施しに関して必要なすべての項目を扱うことができた。1678年、財務官の職を辞任するが、理事者の一員として留まった。そして、リヨンのサン・ヴァンサン教会 *Eglise Saint Vincent* の司祭に就任し、以後、1712年10月31日、81歳の高齢で地上生涯を終えるまで、30余年間、在任することになる。

### ノエル・ショメルの評判

『記憶に値いするリヨンの人々の歴史に役立てる探求』*Recherches pour servir à l'histoire des Lyonnais dignes de mémoire* によれば、ノエル・ショメルは、「大変有徳な人物で、貧者を愛し、熱心に、また、慈しみの心をもって多くの偉大なことをし、また、幾つかの修道院を設立した<sup>18)</sup>。『ジュルナル・ド・ヴェルダン誌』*Journal de Verdun* によれば、「彼はフランス王国の聖職者のなかで最も慈愛心に富む人々の一人であり、彼の労苦の末の成果は、もっぱら貧者を養い、惨めな人々を慰める修道院を維持するために用いられている。<sup>19)</sup>」ラ・ペリエール *La Perrière* の修道院長は、ノエル・ショメルの熱心な慈善事業を支持し、同様の称讃を呈している。「リヨンのサン・ヴァンサン教会の司祭、ノエル・ショメルは、全市に知られ、幾つかの修道院を設立し、維持するのに成功しており、その敬虔さは有名で、推薦に値いする人である。<sup>20)</sup>」と評している。ノエル・ショメルは彼自身が設立したランファン・ジェジュ・ド・サン・

【厚生新篇】の原著者、ノエル・ショメルについて

ヴァンサン L'Enfant-Jésus du Saint Vincent やボン・パストゥール Bon Pasteur の修道院に特に関心を持ち、これらの修道院を維持するために、博物に関する彼の知識を利用し、多くの解決策や秘訣を与えた。たとえば、ノエル・ショメルはこれらの修道院の修道女たちに、大変利益のあがる収入の方法を授けた。一粒の麦の種子から 80 の穂を生じさせる秘訣を教えたと言われる。彼はこの方法をラ・ペリエール修道院長から学んでいた。

### *Dictionnaire œconomique* の執筆

多様な職務のなかで、ノエル・ショメルは博物の知識を注意深く集め、個人的な研究や読書、絶えざる観察によって得た成果を早くから日用百科辞典として著す意図を持っていた。つまり、農業経済に関する事項をすべて含み、司祭、農耕や牧畜にたずさわる者、商人、役人たちがその職務を果し、その生活を導くのに有用なすべての知識を与え、病気の場合には最良の薬と処方を示す辞典を編纂することを意図した。アヴロンの館では、農村経済のすべての分野、つまり、森、沼、畑、ぶどう畑、菜園、果樹園、家畜飼養場、鳩小屋を見出し、あらゆる実用的知識を獲得できた。ラ・カンチニー La Quintynnie との文通や関係により、農耕作業や菜園、植物園の経営を学んだ。オリヴィエ・ド・セール<sup>21)</sup> Olivier de Serres、ベルナール・パリシー<sup>22)</sup> Bernard Palissy、シャルル・エチエンヌ<sup>23)</sup> Charles Estienne などの著書や、その他、有名でない著者たちの書物を読むことにより、農業関係の知識を補い、多くの資料を収集した。医学に関しては、リヨンのグラン・トピタル・ジェネラルに在職したあいだに必要な事項を学んだ。*Dictionnaire œconomique* 第二版 (1718 年) の「刊行者の言葉」では、「医者が往診するとき、ノエル・ショメルは共に行き、病人の状態を見、用いられる薬の違いを知り、処方が幾度も成功すると、彼はそれを必ず文章にしてまとめた。それ故、*Dictionnaire œconomique* のなかで見出される薬は信頼でき、効力があると確信できる。<sup>24)</sup>」と述べられている。

ノエル・ショメルは教区の信者たちと話をする機会を多く持ち、彼らからも

『厚生新篇』の原著者、ノエル・ショメルについて

情報を得ている。教区の信者には、木材、麦、ぶどう酒、絹、その他の産物の商売に従事している人たちが多くいた。彼はそれらの物質の性質を明らかにし、栽培法、製法の秘訣を教えるために *Dictionnaire œconomique* を書いたのであった。

このように、ノエル・ショメルは多くの仕事や知友関係を通して、広範で、多様な知識と経験を得、それに基づいて、それまで誰も試みなかった、広範囲に亘る日用百貨辞典の執筆の仕事に従事したのである。

### *Dictionnaire œconomique* の出版

この著作の執筆は1701年に完了している。ノエル・ショメルは1701年12月10日付の手紙で、この辞典の出版が困難な状況におかれていることと、この原稿から引き出しうる利益の一つについて述べている<sup>25)</sup>。1703年3月12日付の手紙では、「フルチエール<sup>26)</sup>の作品の如く、二折判になる予定の *Dictionnaire œconomique* (『財産を増殖し、健康を維持するための多様な方法を含む厚生新篇』)のなかで、僅少な手当のため生活が苦しく、貧乏な司祭の不足を補うための、多くの方法が次々と見出されるでしょう。原稿が完成しているのに、まだ出版されていないのは、本当です。といますのは、大法官によって任命された博士が承認を決めるため、読むのに多くの時間を費やしているからであります。そして、次に、印刷のために多くの時間が必要です。<sup>27)</sup>」と述べている。

ノエル・ショメルは早く貧者を慰め、修道院の人々に教えを伝えたいので、出版を急ぎ、自費出版とした。そのため、紙質は粗悪で、図版はまずかった。かくして、第一版、二巻、二折判で、5部に分類された著書が刊行された。*Dictionnaire œconomique* が如何に不完全でも、取り扱っている項目の多用性の故に、きわめて早い売行きを示し、大成功となった。多くの人々はこの辞典から得る知識により大きな利益を受けることになった。当時の人々は、重要な職務を持ち、それを十分に遂行している76歳の老人が、直接の協力者もなしに、このような労苦の多い、長年月を要する仕事を完成しえたことに、ただ感嘆し

たと言われる<sup>28)</sup>。

### 当時の書評

このような *Dictionnaire œconomique* に対する当時の書評はどのようなものであつたらうか。当時、権威のあつた『ジュルナル・デ・サヴァン誌』*Journal des Savants* は「この辞典に関するさらに全体的な考えを示すために、他のすべての題目と共に、キリスト教道徳に基づいた教えと知識を含んでいることに注目する。<sup>29)</sup>」と述べ、例として、Pの欄の、<sup>プレートル</sup>Prêtres(司祭)、<sup>プレディカトール</sup>Prédicateurs(説教者)という語をひくと、司祭および説教者の義務が如何なるものかを示し、また、これらの職務に関する罪をすべて挙げている。Mの欄で、<sup>マジストラ</sup>Magistrat(大法官)の語をひくと、この職務の義務は何か、また、<sup>ミツショネール</sup>Missionnaires(宣教師)をひくと、この職務の義務は何かを教えており、Sの欄で、<sup>シュペリユール</sup>Supérieur(修道院長)をひくと、修道院長、修道士、修道女のなすべき義務が何であるかを説いていると述べて、この辞典が、一般の日常生活に役立つだけでなく、キリスト教道徳に基づいた教えを与えていることを指摘している<sup>30)</sup>。『メモワール・ド・トレヴー誌』*Mémoires de Trévoux* は、「我々の世紀は、未だ、これと並びうる辞典を見たことがない。この辞典は我々の誇りとすることのできる全く新しい発明である<sup>31)</sup>。」と述べており、そして、医学が殆んど遺伝的である家系に生れ、有名な医師を身内に持っていたので、ノエル・ショメルは治療法をこの辞典に、容易に収録することができたこと、リヨンの総合病院を管理、経営して、医療に関する多くの経験を得たこと、また、農業に関しては、ド・ラ・カンチニー氏の友情やラ・ペリエール修道院長の好意により有益な教えを得たこと、さらに、『富者になる方法<sup>32)</sup>』、『園芸<sup>33)</sup>』などよい文献資料から学んだことを指摘している。

### *Dictionnaire œconomique* の諸版

ノエル・ショメルは初版を刊行すると直ちに、補遺を作成する仕事を始めて

『厚生新篇』の原著者、ノエル・ショメルについて

いる。死去の年、1712年に二折大判、一卷の補遺<sup>34)</sup>を刊行した。これには多くの項目、とりわけ、「田園を管理する法律、法令」を収めている。初版は欠陥や不足部分があったにもかかわらず、すぐに絶版となり、1718年、初版を増補、改訂した第二版<sup>35)</sup>が二折大判、二巻本として、パリとリヨンで出版された。『ジュルナル・デ・サヴァン誌<sup>36)</sup>』はこの第二版を称讃し、改訂のすぐれていることを認めている。この第二版の改訂版が1725年、リヨンで、また、1732年、アムステルダムで出版された<sup>37)</sup>。第三版<sup>38)</sup>が1732年、二折大判、二巻本としてパリとリヨンで出版された。この版はダンジュウ Danjou 司祭が大幅に増補、改訂している。第四版<sup>39)</sup>は1740年、二折大判、二巻本としてパリで出版された。さらに、1743年には、補遺<sup>40)</sup>、二巻本が出版されている。最終版となった第五版<sup>41)</sup>は三巻本で、ド・ラ・マール De la Marre 氏によって増補、改訂され、1767年に刊行された、最も完全な版である。ド・ラ・マールはノエル・ショメルの時代には親しかった神学、教会法に関する事項を省略し、宗教的要素を取り除いた。『ジュルナル・デ・サヴァン誌』は「この辞典は人々に非常によく知られ、称讃されているので、今さら、書評するのは無用である。この版はそれまでのどの版よりも優れており、経済学やその周辺科学における、その後の発明、発見を全部、付け加えている。<sup>42)</sup>」と批評している。

*Dictionnaire æconomique* はフランスのみならず、英国、オランダ、ベルギー、ドイツでも多くの読者を持っていた。英語版としては、1725年、1732年、1735年の諸版があり、オランダ語、または、フランドル語版としては、1742年、1743年、1768年、1785年の諸版があり、また、ドイツ語版としては1749年、1750年、1751年の諸版<sup>43)</sup>がある。*Les Chomel*の著者は文化8年(1812年)から約30年の年月を費やして完成された『厚生新篇』の訳業については全く触れていない。

## 結論

ミュッセ・パテ Musset-Pathay は原著者ノエル・ショメルによって書かれた、



【厚生新篇】の原著者、ノエル・ショメルについて

1709年の初版と、ド・ラ・マールによって増補改訂された、最終版である第五版とに特色があることを指摘し、第五版は初版発行以後の科学技術の進歩によって増補改訂されているので、初版よりも優れていると述べている。時代の進展があったから、これは当然のことと言えよう。しかしながら、一世紀近くの間、フランスのみならず、ヨーロッパ中に多くの読者を得、そして、幾度も増補、改訂が加えられながら、つねに原著者「ノエル・ショメル」の名が書名に冠されてきた。これは一冊の辞典に実際生活に必要な項目を全部収録するという企画が、ノエル・ショメル独特のものであったことを物語っていると言えるであろう。

参考文献

1. 【厚生新篇】ノエル・ショメル著、デ・シャルモット訳補、馬場貞由等重訳。静岡厚生新篇刊行会、昭和12年(1937年)、886 P.
2. 【厚生新篇】ノエル・ショメル著、デ・シャルモット訳補、馬場貞由等重訳。静岡県立中央図書館所蔵、恒和出版、昭和53年-54年、5巻、別巻。
3. — *Supplément au Dictionnaire œconomique . . . par messire Noël Chomel, . . . — Lyon, J. Guerrier et A. Besson, 1712. 3 parties en 1 vol. in-fol., pl.*
4. CHOMEL (Abbé Noël). — *Dictionnaire œconomique, contenant divers moyens d'augmenter son bien et de conserver sa santé . . . 2<sup>e</sup> édition . . . Par M. Noël Chomel, . . . — Lyon ; et Paris, E. Ganeau, 1718. 2 vol. in-fol., fig.*
5. — *Dictionnaire œconomique . . . par M. Noël Chomel, . . . 3<sup>e</sup> édition, revûë, corrigée et augmentée d'un très grand nombre de nouvelles découvertes et secrets utiles à tout le monde, par M. P. Danjou, . . . — Lyon ; et Paris, E. Ganeau, 1732. 2 vol. in-fol, fig.*
6. — *Dictionnaire œconomique . . . par M. Noël Chomel, . . . 3<sup>e</sup> édition, revûë, corrigée et considérablement augmentée par J. Marret, . . . — Amsterdam, J. Covens et C. Mortier, 1732. 2 vol. in-fol., titre rouge et noir, front., pl. et fig. gravés par B. Picart, le Romain.*
7. — 1740. 4<sup>e</sup> éd. — *Paris, V<sup>o</sup>e d'E. Ganeau. 2 vol. in-fol., fig.*
8. — *Dictionnaire œconomique . . . ouvrage composé originairment par M. Noël Chomel, . . . Nouvelle édition, entièrement corrigée et très considérablement augmentée, par M. de La Marre. — Paris, Ganeau, 1767. 3 vol. in-fol., fig.*
9. *Les Chomel, médecins (1639—1858) et leur famille. — Biographie et généalogie —*

【厚生新篇】の原著者、ノエル・ショメルについて

Paris, 1901, In-8°, 442p.

注)

- 1) 【厚生新篇】(昭和12年)、「厚生新篇序文」P. 1, 枢密顧問官, 石渡敏一博士。
- 2) *Ibid.*, p. 5. 桑木或雄博士。
- 3) *Ibid.*, p. 6. 藤浪剛一博士。
- 4) 日本フランス社会学会主催の講演「フランス社会学と日本」(1976年10月14日)において, 講師の蔵内数太博士が指摘された。
- 5) 【厚生新篇】(昭和12年)「厚生新篇解説」P. 1。
- 6) (1787年-1822年), 長崎のオランダ通詞, 幕府天文方出仕, 抑留中のグローニンンの通訳などした。著訳書に「蘭語冠履辞考」「和蘭文範摘要」など多くある。
- 7) (1756-1827年)江戸中期の蘭学者。杉田玄白の門下で, オランダ医学を修める。著訳書には「重訂解体新書」「瘍医新書」その他がある。
- 8) (1769年-1834年), 蘭学者。著書に「遠西医範」「和蘭薬鑑」などがある。
- 9) (1785年-1837年), 大槻玄澤の一子。玄澤の死後, 玄澤を襲名した。蘭学者。
- 10) (1798年-1846年), 幕末の洋学者。西洋流の純粹自然科学の先駆者。著書に, 「植物啓原」「生石灰の解凝力」などがある。
- 11) (1787年-1839年)蘭学者。シーボルトの門にも学んだ。著書に, 「泰西内科集成」「西医原病略」などがある。
- 12) ( ? -1838年)
- 13) 【厚生新篇】(昭和53年)「譯編初稿大意」P. 10。
- 14) Paris, Delalaim frères, 1901. 442 p.
- 15) 宗教戦争の頃, ショメル家の人々の中には, 熱烈な改革派信仰をいだく者もいた。ナントの勅令の廃止(1685年)のさい, 彼らはジュネーヴやオランダに逃れた。cf. *Les Chomel*, pp. 9, 10, 12.
- 16) *Les Chomel*, p. 28.
- 17) La Quintynie, 著書に *Instruction pour les jardins fruitiers et potagers, ...* (『果樹・菜園のための教え』), Paris, 1690. がある。
- 18) Cf. *Les Chomel*, p. 30.
- 19) *Journal de Verdun*, déc. 1712, p. 439 ; Cf *Les Chomel*, p. 30.
- 20) Prieur de la Perrière, *Le Secret des Secrets*, 1698.
- 21) Olivier de Serres (1539-1619), フランスの農学者。 *Le Théâtre d'agriculture et mesnage des champs*, Paris, 1600. の著者。
- 22) Bernard Palissy (1510-1589 又は 1590), フランスの陶芸家, 作家, 学者。 *Discours admirable de l'art de terre* (1589) の著者, その他, cf. p.81 の註 (32)。

【厚生新篇】の原著者、ノエル・ショメルについて

- 23) Charles Estienne (1504–1564), 医学者, 著書に, *L'Agriculture et maison rustique* (1564) などがある。
- 24) Avertissement de l'éditeur, 2<sup>e</sup> édition du *Dictionnaire œconomique* (1718) ; cf. *Les Chomel*, p. 32.
- 25) Cf. *Les Chomel*, p. 33.
- 26) Antoine FURTIÈRE (1619–1688) 彼の多くの著書のなかで二折判は, *Dictionnaire universel, contenant généralement tous les mots françois . . .*, La Haye et Rotterdam, 1690, 3 vol. in-fol.
- 27) *Les Chomel*, p. 33.
- 28) Cf. *Les Chomel*, p. 35.
- 29) *Journal des Savants*, 1709, p. 367 ; cf. *Les Chomel*, p. 35.
- 30) Cf. *Les Chomel*, pp. 35–36.
- 31) *Mémoires de Trévoux*, Mai 1710 ; cf. *Les Chomel*, p. 36.
- 32) Bernard Palissy, *Le moyen de devenir riche, . . .* Paris, R. Fouet, 1636.
- 33) Antoine Mizauld, *Le Jardinage . . .* J. Lertout, 1578.
- 34) *Supplément au Dictionnaire œconomique . . .* par messire Noël Chomel, . . . Lyon, 1712.
- 35) *Dictionnaire œconomique, . . .* 2<sup>e</sup> édition, Lyon et Paris, 1718.
- 36) *Journal des Savants*, 1718 ; cf. *Les Chomel*, p. 37.
- 37) オランダの書店によって出版されたこの版は, 1725年版の海賊版と言われている。cf. *Les Chomel*, p. 37.
- 38) *Dictionnaire œconomique . . .* 3<sup>e</sup> édition, Lyon et Paris, 1732.
- 39) *Dictionnaire œconomique, . . .* 4<sup>e</sup> édition, Paris, 1740.
- 40) *Supplément au Dictionnaire œconomique, . . .* Paris, 1743.
- 41) *Dictionnaire œconomique . . . ouvrage composé originairement par Noël Chomel, . . . Nouvelle édition, entièrement corrigée et très considérablement augmentée*, par M. de La Marre. Paris, 1767.
- 42) Cf. *Les Chomel*, p. 40.
- 43) Cf. *Les Chomel*, pp. 41–42.